

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	羊蹄会岩倉市施設群	階数	地上3F
建設地	岩倉市曾野町郷前1,2,3,4,5,6-1,6-2	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	54 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 予定	評価の実施日	2016年11月30日
敷地面積	2,575 m ²	作成者	猪俣 兼人
建築面積	1,620 m ²	確認日	2013年12月1日
延床面積	3,336 m ²	確認者	早瀬 元明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 96%

③上記+②以外の 96%

④上記+ 96%

184 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">1.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音			2.4	0.15	2.4	1.00	2.4	
1.2 遮音			3.0	0.42	3.0	0.42		
1.2.1 開口部遮音性能			2.5	0.42	2.4	0.42		
1.2.2 1 界壁遮音性能			3.0	0.52	3.0	0.30		
1.2.2 2 界壁遮音性能			2.0	0.48	1.0	0.30		
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20		
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音			1.0	0.16	1.0	0.16		
2 温熱環境								
2.1 室温制御			3.0	0.35	2.6	1.00	2.8	
2.1.1 室温			3.0	0.50	3.0	0.50		
2.1.2 1 室温			3.0	0.43	3.0	0.58		
2.1.2 2 外皮性能			3.0	0.28	3.0	0.42		
2.1.2 3 ゾーン別制御性			3.0	0.30				
2.2 湿度制御			3.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境								
3.1 昼光利用			3.0	0.25	3.0	1.00	3.0	
3.1.1 1 昼光率			3.0	0.30	3.1	0.30		
3.1.1 2 方位別開口		住室リビングには南東2面に窓設置	3.0	0.60	3.0	0.58		
3.1.1 3 昼光利用設備			3.0	-	5.0	0.06		
3.2 グレア対策			3.0	0.40	3.0	0.36		
3.2.1 1 昼光制御			3.0	0.30	3.0	0.30		
3.3 照度			3.0	1.00	3.0	1.00		
3.4 照明制御			3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4.1 1 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境								
4.1 発生源対策			3.0	0.25	3.0	1.00	3.0	
4.1.1 1 化学汚染物質			3.0	0.52	3.0	0.63		
4.2 換気			3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2.1 1 換気量			3.0	0.32	3.0	0.38		
4.2.1 2 自然換気性能			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理			3.0	0.16				
4.3.1 1 CO ₂ の監視			3.0	-				
4.3.1 2 喫煙の制御			3.0	1.00				
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ			2.8	0.40	3.9	1.00	3.2	
1.1.1 1 広さ・収納性		病室面積個室10㎡以上、多床室8㎡/人以上	3.0	0.40	4.5	0.60		
1.1.1 2 高度情報通信設備対応			3.0	-	5.0	0.80		
1.1.1 3 バリアフリー計画	独自		3.0	1.00	3.0	0.20		
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	3.0	0.40		
1.2.1 1 広さ感・景観		病室天井高2.7m	3.0	-	5.0	0.50		
1.2.1 2 リフレッシュスペース			3.0	-				
1.2.1 3 内装計画			3.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理			2.5	0.30				
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50				
1.3.1 2 維持管理用機能の確保			2.0	0.50				
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震			2.8	0.31			2.8	
2.1.1 1 耐震性			3.0	0.48				
2.1.1 2 耐震性			3.0	0.80				
2.1.1 3 免震・制振性能			3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数			2.7	0.33				
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23				
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		2.0	0.23				
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09				
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08				
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15				
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23				
2.4 信頼性			2.8	0.19				
2.4.1 1 空調・換気設備			3.0	0.20				
2.4.1 2 給排水・衛生設備			2.0	0.20				
2.4.1 3 電気設備	②		3.0	0.20				
2.4.1 4 機械・配管支持方法			3.0	0.20				
2.4.1 5 通信・情報設備			3.0	0.20				
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり			2.8	0.29	3.3	1.00	2.9	
3.1.1 1 階高のゆとり		階高3.8m	3.6	0.25	3.6	0.50		
3.1.1 2 空間の形状・自由さ			4.0	0.60	4.0	0.60		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.40	3.0	0.40		
3.3 設備の更新性			3.0	0.25	3.0	0.50		
3.3.1 1 空調配管の更新性	②		2.3	0.50				
3.3.1 2 給排水管の更新性			1.0	0.17				
3.3.1 3 電気配線の更新性			1.0	0.17				
3.3.1 4 通信配線の更新性			3.0	0.11				
3.3.1 5 設備機器の更新性			3.0	0.11				
3.3.1 6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22				

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		Q3 室外環境(敷地内)						-
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				1.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.71		4.2	0.32		-	4.2
2 自然エネルギー利用				2.7	0.20		-	2.7
3 設備システムの高効率化				3.4	0.32		-	3.4
集合住宅以外の評価(3a.3b)				3.0	0.80		-	
集合住宅の評価(3c)				5.0	0.20		-	
4 効率的運用				3.0	0.16		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	0.80		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				3.0	0.20		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.73		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.27		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63		-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自		ビニル床タイル	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		鉄骨造、内装は乾式工法	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.6	0.22		-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.5	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				2.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮				3.1	0.33		-	3.1
1	①	ライフサイクルCO2概算値:96%		2.5	0.33		-	2.5
2 地域環境への配慮				3.0	0.25		-	
2.1 大気汚染防止				2.0	0.50		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.2	0.25		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制	独自		駐輪場設置、駐車場163台確保	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制				4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音	独自			3.0	0.33		-	
2 振動	独自			3.0	0.33		-	
3 悪臭				3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40		-	
1 風害の抑制				1.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-	-		-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のすぢ外に漏れる光への対策			公害対策ガイドライン・広告物照明の扱ひの過半を満たしている	5.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:1.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	3つの施設が、合理的に機能を満足できる建物ゾーニング、断面構成とする。 施設内諸室を適宜配置し、合理的で機能的な動線計画とする。 患者・入居者エリアの充実・居住性の向上と職員の働きやすさを両立した施設とする。 地震、火災などの災害に強い安全性の高い強固な建物とする。
Q1 室内環境	快適な環境を提供できるよう、温熱環境に配慮する。高齢者の使用が多い施設であるため、照度は高めに計画する。
Q2 サービス性能	複数の機能が集約された施設であることより、動線などに配慮し機能的なゾーニング計画とする。
Q3 室外環境(敷地内)	上階はセットバックし、周辺への圧迫感低減と交差点付近の見通し確保を行う。
LR1 エネルギー	断熱性能の強化を行い、省エネ効果の向上を図る。
LR2 資源・マテリアル	使用者の健康に配慮し、F☆☆☆☆の材料を積極的に採用する。
LR3 敷地外環境	車両での利用が多い施設のため、十分な駐車台数を確保する。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。